

第1 弁護士坂和章平プロフィール

事務所

〒530-0047

大阪市北区西天満3丁目4番6号

西天満コートビル3階

坂和総合法律事務所

TEL:06-6364-5871

FAX:06-6364-5820

1. ホームページ

http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp

1949年1月 愛媛県松山市に生まれる(団塊世代)

1971年3月 大阪大学法学部卒業

1972年4月 司法修習生(26期)

1974年4月 弁護士登録(大阪弁護士会)

1979年7月 坂和章平法律事務所開設

(後 坂和総合法律事務所に改称) 現在に至る

2. 都市問題に関する主な著書(1985~2009年)

『実況中継 まちづくりの法と政策』1~4ほか多数

3. 映画評論に関する著書

『SHOW HEYシネマルーム』1~22

坂和さんは2000年以降、毎年のように中国各地を訪れ、旅行記を自身のホームページに掲載。22巻の映画評論書『SHOW HEYシネマルーム』を出版し、中国特集を組むほど「中国、特に歴史好き」。07年には有名な映画監督など多くの映画人を輩出している北京電影学院で講演したこともあり「日本人が中国映画をこう見ている」という本を中国語で出版したいという夢を持っていたという。

出版のきっかけは08年3月、日本在住の中国人作家・毛丹青さんとの出

中国映画評論 交流の橋渡し

「レッドクリフ part II」など日本で大ヒットを生み出す中国映画。弁護士で映画評論家としても活動する大阪市北区西天満3丁目、坂和章平さん(60)は松山市出身がこのほど、日本人の視点からの中国映画評論と旅行記を交えた『取景中国(Shots of China)』(上海文芸出版社)を中国で出版した。

坂和さん(大阪在住、松山出身) 現地で出版



中国で「取景中国」を出版した坂和さんと上海ブックフェアで掲げられた宣伝幕

会い。「日中友好・交流が自身の大きなテーマ」

という坂和さんと意気投合。毛さんのプロデュース、翻訳家の紹介を受け、出版の話はほとんどん拍子に進んだ。「取景中国」は8月中旬に上海で開かれた大規模なブックフェアに出展。坂和さんはサイン会に出席した。

坂和さんは「中国映画は1990年代には日本でも徐々に広がり、最近ハリウッドを意識した派手な作品もある。人材、財源的に見て、映画の世界でも米中対決色が強まっており、中国の映画人らは日本人がどう見ているかに興味を持っている」と話した。また08年5月、四川大地震が発生しており、弁護士としてまちづくりを専門とする坂和さんは「震災復興の都市計画など、本業の分野でも参考になる本を中国で出版したい」と意気込んでいる。

日本人の視点から分析

第2 『取景中国』出版の意義

1. 毛丹青のプロフィール

1962年 北京生まれ。北京大学卒業

1987年 来日

2001年 『にっぽん虫の眼紀行 中国人青年が
見た「日本の心」』(文庫版)出版

以降、日中バイリンガル作家として活躍

2009年4月 神戸国際大学教授に就任

2. 毛丹青との出会いは?

なぜ毛丹青は本書をプロデュース?

・08年3月19日に会う

・「中国の人気作家蘇童が行く関西の旅 歓迎座談会」

(08年4月2日)に出席

『蘇童・花繁千尋』出版(08年10月)

3. なぜ、旅行記をメインに? 映画をサブに?

4. 1枚の写真の重みは?

(2009.3/25北京・上海旅行で撮影)

北京新超越广告有限公司(陳小東さんの事務所)での

毛丹青との対談風景(本書2~3頁)

5. 「2009上海書展」(上海ブックフェア)(8/18)の重みは?

6. なぜ、日本人弁護士が中国旅行記と中国電影論を?

7. 日中友好のあり方は?

第3 坂和的中国旅行

1. 香港旅行(1997.6/13~16)

2. 大連・旅順・瀋陽旅行(2000.8/10~14)

3. 西安・敦煌旅行(2001.8/9~14)

4. 北京旅行(2003.11/1~4)

5. 杭州・紹興・烏鎮旅行(2004.3/31~4/3)

6. 桂林・深圳・広州旅行(2004.6/10~13)

7. 西双版纳・昆明・麗江・大理旅行

(2004.11/28~12/5)

8. 台湾(台北・高雄・台南・日月潭)旅行記

(2005.3/13~16)

9. 曲阜・泰山・済南・青島旅行

(2005.10/20~24)

10. 上海・杭州・烏鎮・無錫・鎮江・揚州・蘇州

・周庄旅行(2006.3/16~20)

11. 北京旅行(2007.10/7~11)

12. 上海旅行(2008.8/22~24)

13. 北京・上海旅行(2009.3/24~27)

14. 上海旅行(2009.8/17~20)

第4 坂和的映画論

1. 映画評論活動

自社ビル移転、ホームページ開設(2001~09年)

映画評論執筆開始 試写室通い

今年年間300本

『シネマルーム1~22』出版(計1551本)

中国映画 『シネマルーム5』66本、

『シネマルーム17』27本(計93本)

2. 坂和的映画論

(1) なぜ映画が面白いのか?

人間の本性に迫る、人生の縮図、知らないことを
体験、歴史や恋愛の勉強、夢と希望、元気の素

(2) なぜ映画評論を書くか

書かないと忘れる、書くことによって感動を記録、
他者との議論のネタ、読者にも夢と希望と元気を与
える

(3) 何が好きか?

人それぞれ、必ず好きなジャンルあり

(4) 映画評論の何が面白いのか?

映画の話題は老若男女に共通

人間の本音に早く迫れる。本性が早く見れる、
異なる意見、見方、感性を知る

(5) こだわりがわかる!

私のこだわりは? あなたのこだわりは?

面白い人がたくさん・・・

3. 私の映画評論の特徴(ユニーク性)

(1) 弁護士の視点

法廷のあり方、各種の法律上のテーマ

その他(危機管理のシステム)

(2) 都市法政策の講義、都市問題の実践からみる視点

都市・住宅政策、公害

(3) 歴史大好き人間の視点 - 中国、韓国、ヨーロッパ中世

(4) 文学大好き

(5) 戦争映画検討の視点

(6) 日本人論追及の視点(西欧や中国との対比)

(7) 恋愛大好き、ピュアな少年の視点(?)

(8) エロおやじの視点

(9) 時事問題検討の視点

第5 中国電影100年

1. 中国の近代史

(1) 清時代 『阿片戦争』(97年)

日清戦争(1894~95年)

日露戦争(1904~95年)

(2) 孫文の時代 辛亥革命 『宋家の三姉妹』(97年)

1905年8月 「中国同盟会」発足

1912年1月1日 孫文を臨時大統領に選出

革命政府樹立

(3) 日中戦争(抗日戦争)の時代(1928~45年)

(4) 国共内紛時代(1945~49年)

(5) 新中国建設(1949年~)

(6) 文化大革命 下放政策(1966~76年)

(7) 北京電影学院再開(1978年)

(8) 改革開放政策(1978年~)

(9) 天安門事件(1989年)

(10) まとめ

毛沢東(1949年~) 鄧小平(1978年~)

江沢民(1989年~) 胡錦濤(2003年~)

2. 中国映画100年

(1) 1905年 ドキュメンタリー映画上映

京劇の演目『定軍山』を記録したもの

それから100年 「中国映画博物館」建設(2006年)

(2) 1949年10月1日まで

反日・抗日映画のオンパレード

(3) 1949年10月1日以降

1980年代前半に大きな契機

(4) 日中国交回復と中国映画の日本への導入

・日中国交回復(1972年9月29日)

田中角栄+周恩来

・第1回中国映画祭(1978年)

・中国映画祭(88年、95年、97年、00年)

3. 『黄色い大地』(84年)以降の中国映画の意義

(1) 第5世代監督以前の監督たち

(2) 北京電影学院の果たした役割

(3) 香港映画の果たした役割

1990年代初頭から名作続出

(4) 台湾映画が果たした役割

4. 第5世代監督の果たした役割(特に張藝謀と陳凱歌)

(1) チャイニーズ・ニューウェーブの価値(1984年~)

(2) その作品の特徴と歴史的意義

中国独自の文化

張藝謀監督 『紅いコーリャン』『紅夢』『菊豆』

陳凱歌監督 『黄色い大地』

中国の歴史(古代、近代史)

張藝謀監督 『活きる』

陳凱歌監督 『始皇帝暗殺』

『さらば、わが愛/霸王別姫』

(3) いかに中国的な心温まる物語

しあわせ3部作

『あの子を探して』『初恋のきた道』『至福のとき』

『北京ヴァイオリン』『山の郵便配達』

(4) ハリウッド進出の功罪

張藝謀監督 『HERO(英雄)』(02年)

『LOVERS(十面埋伏)』(04年)

陳凱歌監督 『PROMISE』(05年)

(5) 田壮壮(ティエン・チュアンチュアン)監督の

独自路線は?

『青い凧』(93年) 『春の惑い』(02年)

『呉清源 極みの棋譜』(06年)

(6) 霍建起(フォ・ジェンチイ)監督の独自路線は?

『山の郵便配達』(99年) 『故郷の香り』(03年)

『シヨンヤンの酒家』(03年)

5. 第6世代監督の果たしている役割

(1) 第6世代監督の意義 第5世代監督との違い

(2) 第6世代監督とその作品

・賈樟柯(ジャ・ジャンクー)

『一瞬の夢』『プラットホーム』『青の稲妻』『世界』

『長江哀歌』『四川のうた』

・張楊(チャン・ヤン) 『胡同(フートン)のひまわり』

・張元(チャン・ユアン)

『緑茶』『我愛你』『小さな赤い花』

(3) 第6世代監督の映画祭受賞と検閲

6. この映画、あの映画をどう見るか?(坂和的検討の視点)

(1) 古代歴史モノ 『始皇帝暗殺』『HERO(英雄)』

『女帝 エンペラー』『三国志』『レッドクリフPart 』

『レッドクリフPart 』

(2) 近代歴史モノ 『宋家の三姉妹』『活きる』『阿片戦争』

(3) 戦争モノ 『ヘブン・アンド・アース』『国姓爺合戦』

『SEVEN SWORDS セブンソード(七剣)』

(4) 冒険活劇モノ 『レジェンド 三蔵法師の秘宝』

『花都大戦 ツインズ・エフェクト 』

(5) ドキュメンタリー映画 『延安の娘』『蟻の兵隊』

『ココシリ』

(6) 都市・住宅問題 『上海家族』『世界』

(7) 恋愛感動作 『最後の恋,初めての恋』『緑茶』

『我愛你』

(8) 人間ドラマ 『山の郵便配達』『ジャスミンの花開く』

『玲玲の電影日記』『単騎、千里を走る。』『長江哀歌』

(9) 企業モノ 『CEO』

(10) 学校モノ 『子供たちの王様』『草ぶきの学校』

『思い出の夏』

(11) お葬式モノ 『ハッピー・ヒューネラル』『涙女』

(12) バイオリンもの 『小さな中国のお針子』

『北京ヴァイオリン』

(13) 格闘技モノ 『スピリット』

(14) これぞ中国映画! 『幸せの絆』『キムチを売る女』

『雲南の少女 ルオマの初恋』『孔雀 我が家の風景』

7. 中国映画にみる論点(坂和的問題提起)

(1) 文化大革命をどう考える?

(2) 下放政策をどう考える?

(3) 中国土地バブルをどう考える?

(4) 都市問題 再開発をどう考える?

(5) 民族問題をどう考える?

(6) ドキュメンタリー映画をどう考える?

(7) 日中戦争をどう考える?

(8) メディアの管理体制と検閲をどう考える?

(9) ハリウッド化、シネコン化をどう考える?

以上